

2018年度 聖日礼拝 資料

平成30年1月21日(日)

10:00~12:00

基督聖協団 仙台宣教センター

昨年を思う。

① 昨年は「使徒の働き」を講解してきました。今年も続けて、センターの指針ともなる「聖書に訊く」を続けていきたいと思っています。

「訊く」とは、訪ねて、答えを求める。問うを指しています。

そこで、私たちの生涯は、旧約聖書の聖徒たちが「神の意図」を求めた、尊い姿勢を学び、「知った」ところに留まるのではなく、また「知っている」という事に充実感をえることなく、謙虚になって、まことに神の思いに触れる事ができるような一日一日であってほしいと願うものです。

② 昨年は第4、第5日曜日を、センターは閉鎖し「社会貢献活動」及び「伝道活動」「休息」と致しました。それは決して「礼拝」を休みにしたわけではありません。

「基督聖協団仙台宣教センター」は、建物として「教会」ではなく、宣教師館となっています。

そして宣教師が、普段から宣教を実践していることから「センター」と名付けられました。

つまり当所は、教育館でもあるという事です。そこで、平素より宣教を宣証と置き換えて実践神学を実施しています。その実践場所は南三陸町であり、仙台市に重点を置いています。

③ 昨年は第1から第3日曜日を、「ぶどうの木」という集会（コングリゲーション）を続けてきました。取組内容は「神様との関係」「人との関係」を聖書から学ぶでした。そこから「まことの礼拝」を捧げることでした。

以前は「西仙台教会」でしたが、昨年からは「宣教センター」と変更しました。そこには「変革」を意識しての事でした。今までとは違う意識をもって取り組む決意でした。そこをセンターに通う兄弟と意思相通をもち、さらなる成長を成し遂げていきたいと願うのです。

昨年までは「動」という年でもありました。今年は「静」という年と教えられています。決して何もしないというわけではありません。ある牧師先生に「パウロは洗礼を受けなかった。」そのような働きもあるとアドバイスを下さいました。人は「何もかも」というのではない、それぞれに働きが与えられているという事を思い起こした次第です。また、パウロは3年間「静」という生活をしました。神との関係を深め、被造物の意図を体験し、クリスチャンとの関係を養った事がわかります。人は「静」という「時」が必要であり、そうするように勧められている事を認識しました。故に外への「動」を抑え、センターがセンターとして成り立つ「静」心掛けたいと思います。

今年の「架け橋」は、南三陸町志津川にある「光塩キリスト教会」と協力します。

光塩キリスト教会牧師は、イ・ウヨン先生と言います。私に関わった方で、神様が導こうとされる方を繋げていこうと思います。それと「架け橋」は種蒔きをします。ですが昨年のようなペースではありません。経済の事もあるので回数を減らします。啓蒙活動は昨年よりも多めに出来るようにします。

センターを維持する為には「架け橋」の活動は重要です。多くのクリスチャンに「取り組み」を知って頂き応援を願う必要があります。